

令和4年度都立看護専門学校社会人入学試験小論文課題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

私たちはいま、混迷を極め、先行きの見えない「不安の時代」を生きています。豊かなはずなのに心は満たされず、衣食足りているはずなのに礼節に乏しく、自由なはずなのにどこか閉塞感^{へいそく}がある。やる気さえあれば、どんなものでも手に入り何でもできるのに、無気力で悲観的になり、なかには犯罪や不祥事に手を染めてしまう人もいます。

そのような閉塞的な状況が社会を覆いつくしているのはなぜなのでしょう。それは、多くの人が生きる意味や価値を見いだせず、人生の指針を見失ってしまっているからではないでしょうか。今日の社会の混乱が、そうした人生観の欠如に起因するように思えるのは、私だけではないと思います。

そういう時代にもっとも必要なのは、「人間は何のために生きるのか」という根本的な問いではないかと思います。まず、そのことに真正面から向かい合い、生きる指針としての「哲学」を確立することが必要なのです。哲学とは、理念あるいは思想などといいかえてもよいでしょう。

それは砂漠に水をまくようなむなしい行為であり、早瀬^{くい}に杭を打つのに似たむずかしい行為なのかもしれません。しかし、懸命に汗をかくことをどこかさげすむような風潮のある時代だからこそ、単純でまっすぐな問いかけが重い意味をもつのだと私は信じています。

そのような根幹から生き方を考えていく試みがなされないかぎり、いよいよ混迷は深まり、未来はますます混沌^{こんとん}として、社会には混乱が広がっていく——そうした切実な危機感と焦燥感にとらわれているのも、やはり私だけではないはずです。

出典：稲盛和夫著（2004）「生き方 人間として一番大切なこと」
株式会社サンマーク出版

（設問）

著者が伝えたいことを240字程度に要約した上で、「人間は何のために生きるのか」について、経験を踏まえたあなたの考えを、要約を含めて1,200字程度で述べなさい。